

### 科学技術庁大型耐震実験装置完成

各省試験研究機関や大学民間の研究に共用する施設として、また筑波研究学園都市の施設として昭和42年以来整備を進めてきた大型耐震実験装置も昭和45年6月ようやく完成するところとなった。

本施設は電気油圧式といわれる出力90tの加振機4台によって加振される15×15mの大きさと160tの重量をもつ加振台が中心で、垂直方向の場合は200t水平方向の場合は500tの模型を載せて実験を行なうことができる。

振動波形の種類も正弦波、不規則波のほか、外部入力による任意波形に追従することができるという特色もっている。図は加振機の限界性能であって、各振動数ごとの最大加速度を図示している、模型の重さがかわると最大の加速度もちがってくる。

なお、本施設は11月18日の4学協会共催の地震工学シンポジウムの見学会の予定地となっている。

写真-1 実験施設建屋全景

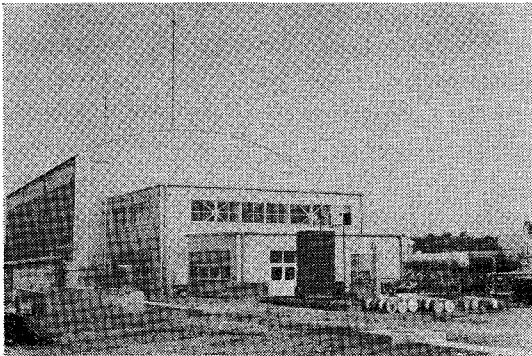
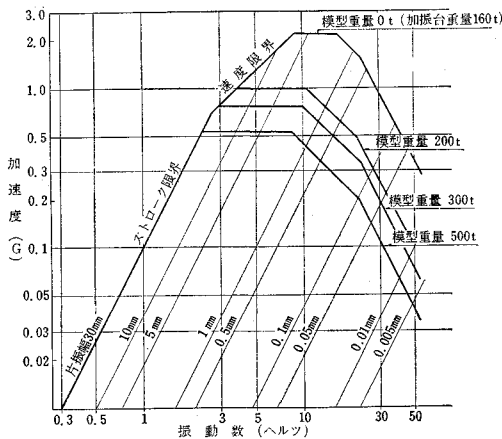


図-1 限界性能図



### 東京都小作浄水場通水開始

東京都は第2次利根川系拡張事業の一環として三多摩地方17市11町へ浄水を分水するため、施設能力28万m<sup>3</sup>/日の小作浄水場を建設してきたが、このたび第1期工事として14万m<sup>3</sup>/日分の施設が完成し、昭和46年6月1日から通水を開始した。これにより、立川、秋多、村山、瑞穂、大和の5市6町への給水が可能となる。

なおこの浄水場は、小河内ダムより放流される原水を羽村取入口で取水し、今回同じく新設した羽村導水ポンプ所を経由して3km導水してくるものである。概要は次のとおりである。

所在地 東京都西多摩郡羽村町羽地内

計画給水量 第1期工事分 14万m<sup>3</sup>/日

全施設完了後 28万m<sup>3</sup>/日

施設概要 着水井 幅7.6m×長11.0m×深5.2m

急速攪拌池 幅4.0m×長4.0m×深6.2m  
2室

フロック

形成池 幅20.3m×長12.1m×深4.0m  
4池

沈殿池 幅20.3m×長16.75m×深5.5m  
4池

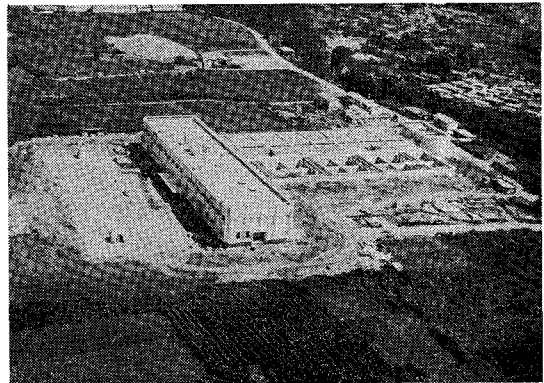
急速ろ過池 幅7.9m×長9.1m×深5.15m  
16池

グリーンリーフ式自動逆流洗浄方式

浄水池 幅51.0m×長32.0m×有効水深4.1m

排泥脱水機 立型加圧ろ過方式 2台

写真-1 ほぼ完成した小作浄水場



### 一般国道4号・盛岡バイパス完成

昭和45年6月3日、国道4号盛岡バイパスの竣功式が挙行された。本バイパスは、歩道をそなえた4車線の

完成断面で、全長 9.4 km (起点盛岡市南仙北町1丁目川久保～終点同市下厨川上上堂間)の道路である。

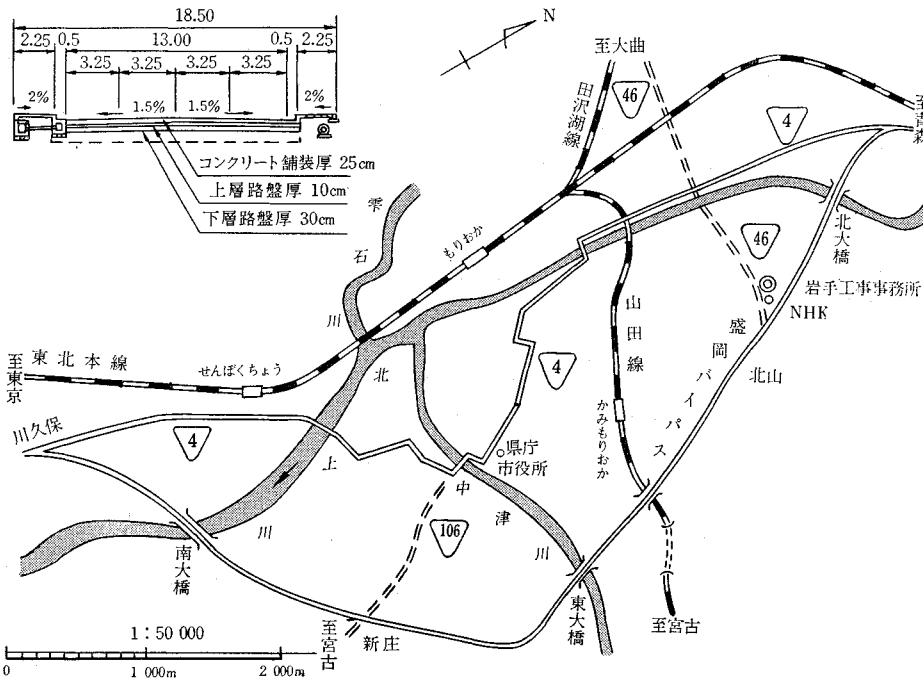
「みちのくの都」盛岡は近年北奥羽の中心として発展してきたが、従来の国道は、南部公40代の歴史がつづる城下町特有の屈折の多い、幅員の狭い道路で、しかも市中心部を通り南北に抜けていたもので、最近の自動車交通の激増、大型化により、随所に車両渋滞、交通障害を起し、市街部の交通は限界にきていた。数年間にわたる用地買収後39年度から本工事が開始され、爾來6ヵ年の歳月と32億円を要し、昭和41年の部分供用に始まり、42、43年の部分供用、44年5月の一部改良状態での全線供用を経て今回の完成をみたものである。

表-1 事業概要

構 造	事業費	総工事量
延長	9371 m	改良 2112百万円
総幅員	18.5 m	(うち用補費 1254)
最急縦断勾配	4%	橋梁 548
最小曲線半径	200 m	舗装 578
横断勾配	1.5%	長大橋 4橋
設計速度	70 km/h	溝橋等 106カ所
舗 装	Co. 舗装	こ道橋 3カ所
	計 3238百万円	歩道橋 9カ所

交通量は、45年5月の実測によると22400台/日を数え、市内を通過していた大型車が一扫され、交通緩和はもちろんのこと、交通緩和はもちろんのこと、交通安全上も大いに効果が期待されている。

図-1 盛岡バイパス位置図



また、ここ数年間に市内の道路も見ちがえるばかりに整備されてきたが、本バイパスを背骨として放射状に伸びる道路体系をみると、国道バイパスの果たした役割を痛感するものである。

事業の概要は表-1のとおりである。舗装はコンクリート舗装で、交差点のみは修繕時の交通処理を考えてアスファルト舗装とし、条件の悪い交差点には融雪舗装を行なった。

写真-1 新庄から起点側を望む

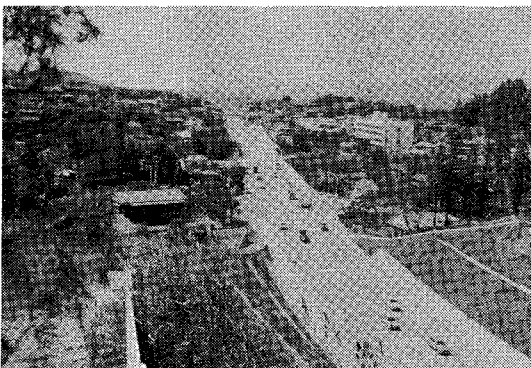


写真-2 新庄から終点側を望む (右手前方は岩手山)

